

お知らせ

◆議員による寄附や年賀状などは法律で禁止されています。

議員は、公職選挙法により次のことを禁止されています。

- 市民の皆さんのご理解をお願いいたします。
- ・年賀状などのあいさつ状を出すこと（答礼のための自筆によるものは除きます）
- ・寄附をすること
- ・本人が出席しない慶弔に祝儀や香典を出すこと

◆次回定例会の開催予定は

11月30日(月)です。

市議会だよりは、紙面の都合で発言の一部（要旨）を掲載しています。詳しくは、図書館で会議録をご覧ください。平成21年第3回定例会の会議録は、12月上旬からご覧になれます。なお、会議録は桐生市ホームページでもご覧いただけます。

請願の審査結果

この定例会では、請願8件の審査を行い、その結果、2件は不採択、6件は閉会中の継続審査となりました。

◎不採択となった請願

付託委員会	受理番号	件名
総務委員会	第25号	小規模契約希望者登録制度の改善を求める請願
	第33号	「所得税法第56条の廃止を求める意見書」採択を求める請願

◎閉会中の継続審査となった請願

付託委員会	受理番号	件名
総務委員会	第27号	中国人強制連行・強制労働に対する救済施策を求める請願
	第28号	中国の平頂山事件被害者への謝罪を求める請願
	第31号	「日米『核密約』の公表と廃棄を求める意見書」の採択を求める請願
	第32号	「日米地位協定に関わる『裁判権放棄の密約』の公表と廃棄を求める意見書」の採択を求める請願
建設委員会	第29号	住宅リフォーム助成制度の創設を求める請願
教育民生委員会	第30号	医師・看護・介護職員の人材確保、地域医療・介護の確立に向けた意見書採択の請願

財政指標については

平成二十年度決算における経常収支比率は、九七・四パーセントで、前年度の一〇〇・五パーセントと比較して改善されているものの依然として厳しい数値を示しているといえる。

また、財政健全化四指標については、実質公債費比率が一〇〇・二パーセント、

平成20年度桐生市歳入歳出決算及び桐生市水道事業会計決算については、それぞれ賛成多数で認定しました。

同決算の認定にあたっては、監査委員による監査報告の後、各会派を代表して5人の議員が総括質疑を行うとともに、決算特別委員会（委員15人で構成）を設置し、2日間にわたり慎重に審査を行いました。

総括質疑における主な質疑に対する当局の答弁の概要は、次のとおりです。

平成20年度

決算を認定

みどり市との連携については

ファミリースポーツセンター運営の広域化や上水道水質検査の共同実施をはじめとする四十四の連携交流事業並びに不妊治療助成など八項目における行政サービスの差異解消に向けた取り組みを推進する中で、両市民の一体感が醸成されつつあるものと確信している。

総合福祉センターの運営については

今年二月に運営を開始した同センター内に地域福祉のあらゆる機能が集約されたことにより、関係者間の相互連携の円滑化が図られており、館内に設置された調理室や交流コーナーについても有効に利用されているものと実感している。

また、広い駐車場や敷地内へのバスの乗り入れ、バリアフリー対応となつているトイレは、利用者の好評を得ているところである。

(桐生市総合福祉センター)



厚生総合病院への支援については

現在、神経内科、循環器科並びに心臓血管外科の常勤医師が不在となつている。厚生総合病院においては、医師の確保が最重要課題となつている。

このような状況を踏まえ、今後も引き続き群馬大学などに対する医師派遣の依頼や関係機関への働きかけ、さらには医師の負担軽減に向けた支援などを行つていく中で、地域の中核病院としての機能充実を図つていきたい。

観光については

駅を起点とした「まちなか観光」の推進に積極的に取り組んでいる。特に、伝統的建造物群保存地区指定を目標としている本町一・二丁目地区を中心に、まちなかの観光資源としての魅力を鉄道事業者やバス事業者などに積極的にPRする中で、「はとバス日帰りツアー」などの旅行商品が企画されるようになっていく。

また、平成二十年度には、国土交通省による「関東まちづくりコンサルティング事業」を通じたみどり市、日光市とのネットワークの構築にも取り組んだところであり、これにより各地域

における観光振興に向けた機運も高まってきている。

緊急雇用対策については

昨年十二月に設置した「桐生市緊急雇用対策本部」を核に、緊急かつ総合的な雇用に向けた取り組みを行っている。

平成二十年度には、市が実施する四事業において四十人の雇用機会を創出すべく求人を行い、二事業において五人の雇用を確保するに至つた。

二十一年度においても、引き続き求職者のニーズにかなった職種や雇用期間などを設定できるよう検討する中で、効果的な事業実施に努めているところである。

北関東自動車道へのアクセス道路については

これまで中通り大橋線と桐生大橋線の整備を行つてきたが、中通り大橋線については、平成二十二年三月

末の開通を目標として引き続き事業を進めており、桐生大橋線については、群馬県が国道五十号線までの延伸区間の整備に取り組んでいるところである。

中通り大橋線を太田敷塚インターチェンジにまで延伸する構想については、今後もその具現化に向け、群馬県や太田市への働きかけを行つていきたい。

また、新里・黒保根地域から伊勢崎インターチェンジへのアクセス道路につい

ても、現在作成中の都市計画マスタープランの中に位置づけているところである。

適正配置により開校した中学校の現状については

昨年四月に開校した中央中学校においては、意欲的かつ節度ある態度で生徒たちが授業に臨んでいるようである。なお、運動部の練習場所として、校外施設を使用する機会もあるが、移動の際の安全確保のための指導には万全を期している。

また、清流中学校においては、今年四月の開校に際して職員を増員し、きめ細かな教科指導や生徒指導などに努めており、生徒たちは、活気ある学校生活を送っているようである。

第三回臨時会を開催

八月十一日に、平成二十一年第三回臨時会が召集され、一日の会期で開催されました。

この臨時会では、国からの地域活性化・経済危機対策臨時交付金を財源とした事業実施などに係る補正予算案二件の審議を行い、それぞれ原案のとおり可決しました。

また、桐生市議会として、七月十一日に亡くなられた近藤健司氏に哀悼の意を表し、市議会議員として市政に貢献された同氏に対して弔詞が贈られるとともに、代表議員により追悼の詞が述べられました。

(市議会議事堂)



賛成討論

厳しい財政状況の改善を図るためには、経常経費削減や自主財源確保に向けたより一層の努力が求められるが、効率的な事業執行に努める中で、日本一の子育て都市実現をはじめとした諸施策の具現化に向けた各種事業が積極的に推進されたことを高く評価する。

特に、すこやか児童手当や子供医療費無料化の拡充、不妊治療助成の開始、さらには学校施設耐震改修計画の前倒しなどの諸施策が推進されたことにより、子育て環境の一層の充実が図られたものと言える。

また、給水人口が漸減する中で、多額の純利益を確保した水道事業の運営についても高く評価する。

反対討論

歳出における委託料・補助金の見直しなど、財政健全化に向けた取り組みが徹底されているようには見受けられない。一方で、退職手当債の起債など、市債に過度に依存した行財政運営が進められていることは市民の理解を得難いものと言える。

また、国民健康保険事業における税の値上げや資格証明書発行の現状は市民生活を思いやる視点を欠いているものである。

そのほか、厚生病院運営に係る補助金の2億円削減、教育環境に配慮せずに実施された学校統廃合、将来における使用料値上げを視野に入れた水道事業運営などについても妥当性を欠くものと言える。